



川口市立本町小学校

ことば

こころ

いのち

1年生

教材名 「つばめ」

ねらい

つばめを大切にしている主人公や家族の様子から、生き物のことをかわいと思う気持ちや優しく接する喜びに気づき、身近な動植物に親しみをもって接しようとする心情を育てる。

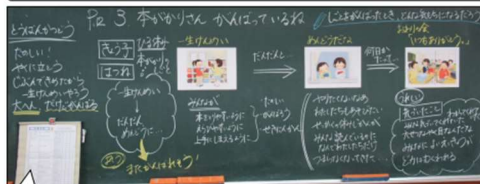


お父さんとお母さんは、つばめが来ることを毎年楽しみにしている。つばめが生きていくための環境を整えるお手伝いをしている両親の姿を見て、つばめが元気に巣立っていく様子に喜びを感じている女の子に共感しながら、生き物に優しくすることについて考えた。
生き物のことをかわいと思う気持ちや優しくしたときの喜びを思い出し、これからも優しくしたいという思いを高めていた。

2年生

教材名 「本がかりさん がんばっているね」

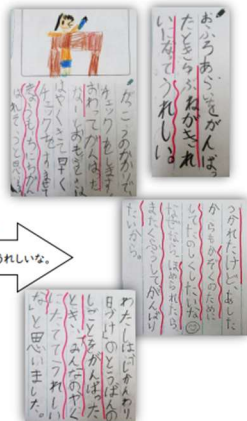
ねらい みんなのために働くことでみんなに喜ばれたり、感謝されたりすることに気づき、みんなのために進んで働くこととする態度を育てる。



毎日の当番活動
たのしい！
頑張っている！
大変なときも…
正直、面倒だな。
たまにさぼる。

「大家でも頑張るといっているんだ！ほめられたり気持ちよくなったり、うれしいな。」

はじめは休み時間にも楽しみながら進んで仕事をしていたが、周りのみんなが楽しく遊ぶ様子を見るうちにだんだんと面倒に思えてきたよう子はつねの気持ちに共感しながら、働くことについて考えた。
学級での当番活動や家の仕事分担を想起しながら、誰かのために働くことで喜んでもらったり褒められたりすること、自分の気持ちももつたりすることに気づき、今後の活動への意欲を高めている様子が見られた。

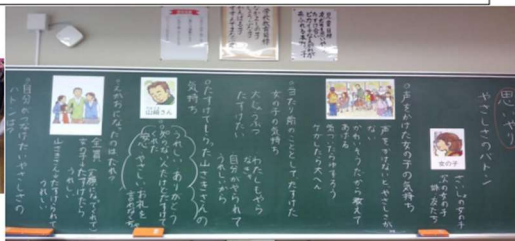


3年生

教材名 「やさしさのバトン」

ねらい

思いやりの心は、バトンのようにつながり、相手を笑顔にするだけでなく、じぶんじしんも周りの人も笑顔にしていけることに気づき、進んで親切にしようとする心情を育てる。



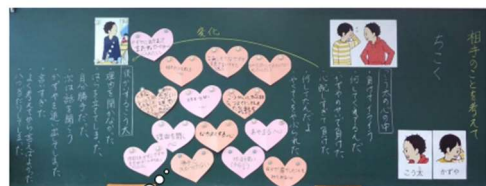
病気で目が見えなくなった山崎さんに、女の子が声をかけてくれて通塾を手伝ってくれた。女の子が卒業するまでお手伝いは続き、卒業後はまた別の子どもが助けてくれた。このお話で、自ら声をかけた女の子の気持ちや、声をかけてもらった山崎さんの気持ちなどについて考えた。この出来事で笑顔になったのは誰かという話し合いを通して、親切にされた側だけでなく、親切にした側も笑顔になるという意見が多くあった。思いやりの心は、みんなを笑顔にし、バトンのようにつながっていくということについて考えた。振り返りでは、自分がつなげていきたい「やさしさのバトン」について考え、親切な行動を広げていこうとする意欲を高めた。

4年生

教材名 「ちこく」

ねらい

自分の考えを遠慮せず、相手の考えや気持ちをしっかりと考え、自分の考えをきちんと伝え合うことで、気持ちよく生活できることに気づき、互いを理解し尊重し合おうとする態度を育てる。



こうした気持ちの変化にはどんな心によるものなのかを班で考え、掲示した。

振り返りでは、自身の経験を振り返り、相手の立場や状況を理解するために大にしたい心を自分で決め、ノートに書き、発表した。



5年生

教材名 「命」

【ねらい】

限りある命を精一杯生きる由貴奈さんの姿から、生命はかけがえのないものであることを自覚し、限りある命を精一杯生きていこうとする心情を育てる。



導入では、命の有限性に目を向けさせ、ねらいとする価値への方向づけを図った。どのような思いで由貴奈さんが「命」という詩を書いたのかを考えることを通して、命はかけがえのないものであると気づくことができるようにした。考えを交流することを通して、考えを広げたり深めたりすることができた。

6年生

教材名 「おかげさまで」

【ねらい】

「おかげさまで」に表れているように、自分たちの生活が多くのつながりで支えられていることを理解し、何に対しても感謝の気持ちを忘れずに生活しようとする心情を育てる。



米道家 大野将平が大会で優勝したときのインタビュー動画を見せる。その中で大野選手は「応援に来てくれた人、家族、会社の人、」と多くの人に感謝を伝えている。「有名なアスリートってこんなこと言うけど、なんてこいうの？もっとイェイとか、俺が！番とかいいよね？」と疑問を投げかけ、感謝することの大切さを考えさせる。

「農家の人」「推しのアイドル」などの会ったことのない人たちに広まり、更に「普段当たり前だと思っていたご飯や生活」などの私生活に目を向ける児童もおり、沢山の気づきが生まれた。

